岐阜			開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	通信工学		
科目基礎		<u>ですい 1十八</u> 人	、	」   文 <del>( +</del> ∪∪⊔rti	<u> - U                                  </u>		一個旧工工		
科目番号	に目刊	0095				専門 / 遊	32+n		
授業形態					科目区分  単位の種別と単				
開設学科				対象学年	<u>位数 子修単位</u> 5	L. <b>∠</b>			
開設期		後期			週時間数	2			
教科書/教				週时间数	2				
担当教員	(1/2 <u>)</u>	白木 英	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	と成 コロノ 仕)					
到達目標	<del></del>		<u> </u>						
信の技術が 解しても ① 通信路 ② ディイ ③ 多重化	が必要とさる。 うう. 具体 グ変調方式 タル変調方 方式	れる. 本科! 的には, 以 ;	目では,情報を高速が下の項目を学ぶ.	ェア技術が必要とさかつ正確に伝える通	れ, 蓄えるために 信の技術の基礎だ	, データベース! けでなく, 支え	技術が必要とされ,伝えるために,通 ている基礎科目についてもより深く理		
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レ	理想的な到達レベルの目安		 ベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1				通信路に関する応用問題を解くこ		基礎問題を解くこ	7 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 -		
評価項目2	2		解くことができ	アナログ変調に関する応用問題を 解くことができる		関する基礎問題を る	ことができない		
評価項目3	3		を解くことがで	ディジタル変調に関する応用問題 を解くことができる		に関する基礎問題 きる	くことができない		
評価項目4			くことができる	多重化方式に関する応用問題を解 くことができる		する基礎問題を角	多重化方式に関する問題を解くこ とができない		
学科の登	到達目標工	頁目との	関係						
教育方法	去等								
概要									
注意点 授業の属	め方・方法 <u></u>	ておくる 英語導力 授業のF 修上の区分	こと。 入計画:Technical te 内容を確実に身につに	rms			料目や他の専門科目と内容が重なる箇 服ネットワーク、信号処理の復習をし □ 実務経験のある教員による授業		
							•		
授業計画	<u> </u>	1	1			T			
		週	授業内容			週ごとの到達目			
後期	3rdQ	1週	通信工学概要 (ALd	通信工学概要 (ALのレベルC)			身近な通信を理解する。 (授業外学習・事前)計算機アーキテクチャや情報ネットワークにおける通信について復習しておく(約3時間) (授業外学習・事後) 通信に関する演習を解く(約1時間)		
		2週	様々な有線通信と類	えな有線通信と無線通信(ALのレベルC)			有線通信に用いられるケーブルを理解できる。また導波路やアンテナを理解する。 (授業外学習・事前)身近な通信ケーブルやアンテナついてレポートにまとめ提出する(約3時間) (授業外学習・事後)同軸ケーブルやアンテナに関する演習を解く(約2時間)		
		3週	通信工学でのフー	信工学でのフーリエ変換(ALのレベルC)			時間関数のフーリエ変換と連続スペクトルを理解する。 (授業外学習・事前)電気回路、信号処理におけるフーリエ変換について復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後)スペクトルに関する演習を解く (約2時間)		
		4週	振幅変調 (ALのレ	幅変調 (ALのレベルC)			振幅変調の原理とスペクトルを理解する。検波の原理 を理解できる。 (授業外学習・事前)電子回路におけるAM変調回路に ついて復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後)AMに関する演習を解く(約2時間)		
		5週	伝送路の単位と様々	S送路の単位と様々な雑音 (ALのレベルC)			デシベルの計算を理解できる。AMのSN比を理解する。 (授業外学習・事前) 応用数学における確率分布について復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後) 伝送路の単位に関する演習、 AMのSN比に関する演習を解く(約2時間)		
		6週	周波数変調と位相変	変調(ALのレベルC	)	周波数変調の原理とスペクトルを理解する。 (授業外学習・事前)電子回路における変調復調回路 について復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後)FMのSN比に関する演習を解く (約2時間)			

					1					
	7週	パルス変調 (ALのレベ)	IC)	いて復習しておく(約2 🛭	する。 気回路におけるひずみ波につ 寺間) レス変調に関する演習を解く					
	8週	中間試験								
	9週	ディジタル変調方式 (ALのレベルC)		相シフトキーイングを理解 (授業外学習・事前)論理 で復習しておく(約2時間	単学における2値演算につい │					
	10週	多値変調 (ALのレベル)	C)	多値変調を理解する。 (授業外学習・事前)符号化について復習しておく (約2 時間) (授業外学習・事後)多値変調に関する演習を解く (約2 時間)						
	11週	ビットエラーレート (ALのレベルC)		2 時間)	比について復習しておく(約 Rに関する演習を解く(約2					
4thQ	12週	周波数分割・時分割多元接続 ・符号分割多元接続 (ALのレベルC)		く(約2 時間)	里解する。 変調方式について復習してお 元接続に関する演習を解く					
	13週	直交周波数分割多元接続(ALのレベルC)		おく(約2時間)	-リエ変換について復習して DMAに関する演習を解く(約					
	14週	光ファイバ通信(ALのレベルC)		光ファイバ通信を理解する。 (授業外学習・事前)電子工学における発光デバイス について復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後)光ファイバ通信、WDMに関する 演習を解く(約2時間)						
	15週	期末試験								
	16週	通信工学まとめ(ALのレベルC)		基本問題と応用問題を理解する。 (授業外学習・事前) 通信工学の授業を総復習しておく(約2時間) (授業外学習・事後) 通信工学に関するレポートをまとめる(約2時間)						
モデルコアカリ	キュラムの									
分類	分野	学習内容 学習		到達レベル 授業週						
評価割合										
IPM 2	中	 間試験	期末試験	課題	合計					
総合評価割合	10		100	50	250					
得点		00	100	50	250					